

平成29年度病害虫発生予察注意報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：シロイチモジヨトウ
2. 対象作物：エンドウ、キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、
宿根カスミソウ、カーネーション、スターチス
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 発生期間：4月～11月
6. 注意報発表の根拠
 - 1) フェロモントラップによる8月1日～9月15日（紀の川市は9月14日）の誘殺数は、紀の川市96頭（平年32.1頭）、御坊市669頭（平年133.7頭）、印南町174頭（平年130.4頭）であった（図1）。
 - 2) 御坊市、印南町に設置しているフェロモントラップによる8月上旬の誘殺数が顕著に多く、この次世代の誘殺数が9月中旬に増加傾向にある。

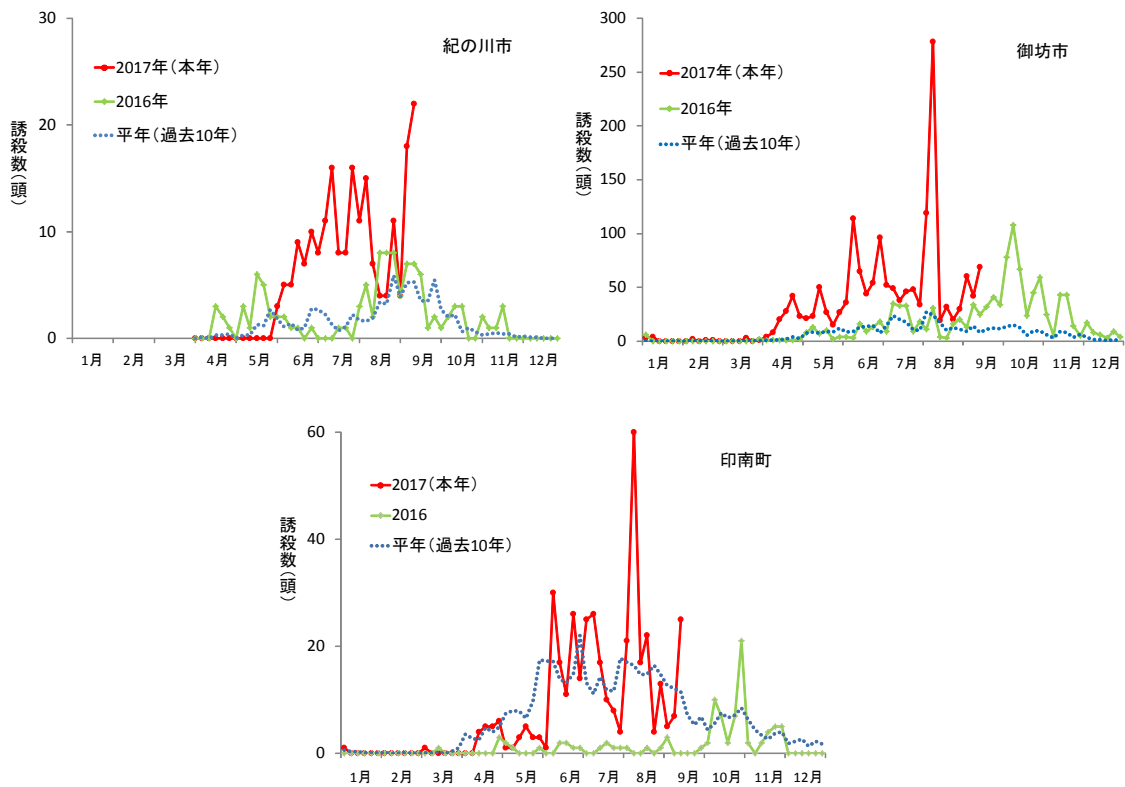


図1 フェロモントラップ誘殺数の推移

7. 防除上の注意事項

- 1) 幼虫は作物の芯部に潜り込む性質があり薬剤の防除効果が上がりにくいことから、物理的防除法（黄色蛍光灯、防虫ネット被覆）や性フェロモン剤による交信攪乱などを併用する。
- 2) 寒冷紗や防虫ネットによる被覆内においても被害発生に注意するとともに、被覆除去後の防除を徹底する。
- 3) 卵塊や分散前の幼虫は、見つけしだい捕殺する。
- 4) 幼虫は大きくなると薬剤感受性が低下するので、若齢幼虫期の初期防除を徹底する。
- 5) 有機リン剤、ピレスロイド剤、カーバメート剤等に対して感受性の低下が報告されている。表1を参考に効果の高い薬剤を使用するとともに、同一系統薬剤の連用を避ける。
- 6) 薬剤については、最新の登録情報（(独)農林水産消費安全技術センター・農薬登録情報提供システム http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）を参照し、適正に使用する。薬剤によって使用時期が異なるので注意する。

表1 シロイチモジヨトウ2齢幼虫に対する殺虫剤の効果

系統名	農薬名	希釈倍率	補正死虫率(%)	
			5日後	
			御坊市	印南町
スピノシン系	ディアナSC	5,000	100.0	100.0
	スピノエース顆粒水和剤	5,000	100.0	100.0
アベルメクチン系	アニキ乳剤	2,000	100.0	100.0
	アフーム乳剤	2,000	83.3	40.0
その他	コテツフロアブル	2,000	100.0	100.0
その他	プレオフロアブル	1,000	100.0	66.7
IGR(脱皮促進)	マトリックフロアブル	1,500	100.0	70.0
IGR(脱皮阻害)	カスケード乳剤	4,000	0.0	3.3
ピレスロイド系	トレボン乳剤	1,000	0.0	6.7
	アディオオン乳剤	3,000	0.0	0.0
ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤	2,000	13.3	3.3
	プレバソンフロアブル5	2,000	0.0	0.0
MET I 剤	ハチハチ乳剤	1,000	10.0	6.7
	無処理		0.0	0.0

供試虫：2017年6月20日に御坊市名田町野島、印南町津井で採集し、人工飼料で飼育した次世代の2齢幼虫

処理日：2017年7月26日

調査日：2017年7月31日

葉片浸漬法、処理2日後に無処理の葉片を追加

担当：農作物病害虫防除所
岡本崇、井口
電話：0736-64-2300